

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「プチ贅沢にロコミ割引」
- 2) 「カフェスペースでマルシェ」
- 3) 「キーホルダー型小型デジカメ」

1) 「プチ贅沢にロコミ割引」

ロコミの発信源になれば、旅行やレストランでの外食などのプチ贅沢がお得に利用できるロコミ割引が人気だ。ロコミ効果で、欲しかった高級アイスクリームの商品券が77%引きになる例もある。

ロコミクーポンサイト「Piku(ピク割) (www.piku.jp) では、東京・銀座にある和食店の食事券(5000円)が2250円で購入できるなど、日替わりで様々な割引情報が更新されている。普段なら敷居が高くて行けない店でも値ごろに食事ができる、利用者の評判も良い。

仕組みは、購入希望者がクーポン情報を「ロコミ」で広げる。規定の購入者数に達すると“団体割引”扱いとなり、定価の5割引き前後から最大9割引きで購入できるというもの。クーポン購入ページにはロコミを発信しやすいよう、「ミクシィ」や「ツイッター」にひと押しでつながるボタンもある。

例えば、“アイスクリームは友達の好物だから割引情報を伝えよう”と、ユーザーが情報を選択して発信してくれるのがロコミの良さだ。知人・友人の少ない人でも「ミクシィ」や「ツイッター」を通じればどんどん情報を波及させることが可能で、あっという間に団体割となるのが今の時代のニーズに合っているのかもしれない。たくさん人が集まれば、企業やお店も様々なサービスができるもの。今後の消費動向の新たな一面が見えてきた。

2) 「カフェスペースでマルシェ」

6月21日、大阪市西区の「スープ&ベジタブルレストラン es」で、野菜などの農産物を販売する「マルシェ」をスタートした。同店は「野菜が主役のレストラン」をコンセプトに、野菜ソムリエで店長の上田祥之さんが考案した野菜スープや野菜のケーキ、サラダバー、野菜ジュースなど野菜にこだわったメニューを中心に提供している。同社広報が「何か堀江の役に立てないかと思い始めていたところに、大阪市内で行われているマルシェを目にした」ことから、ランチ時間帯を過ぎ、一段落したカフェスペースを無料で貸し出すことにした。マルシェの実施にあたり、農林水産省が推進して昨年秋にスタートした「マルシェ・ジャポン」の大阪エリアで実行委員を務めた大須賀企画事務所の大須賀一仁さんがコーディネータとしてかわり、生産者に声をかけた。

出店したのは、生産者自らが店頭立つ和歌山県みなべ町の「プラムセブン」（南高梅、梅干しなど）、紀の川市の「こかわや」（桃、フルーツジャム、はっさくポン酢など）のほか、日高川町の「山崎農園」（ミニトマト）、奈良市の「タナカエッグポートリーファーム」（タマゴ）などの商品も並べる。

プラムセブンの松本啓詩さんは「ネット販売も行っているが、対面販売だとお客さまと本音で話ができる。お客さまはどんな味で、どんな値段のものを求めているのかを知り、商品開発に生かせる」とマルシェの魅力を話す。

マルシェは今後も毎週月曜の16時～18時に定期的に関く予定で、毎回2組の生産者が店頭立つという。

1日の大半を堀江で過ごす身として、常日頃平日昼間の人の少なさが気になっている。店もランチ時間を過ぎればだいぶ落ち着くだろうから、店の空き時間を有効利用するという考え方には大賛成だ。この店は少し外れにあるが、今後マルシェ以外にもこうした取り組みをする店が増え、空き店舗が目立ってきた堀江地区が再び活気づけばと思う。

3) 「キーホルダー型小型デジカメ」

エグゼモードから発売された「EXEMODE SQ30m」。

サイズが53×23×19mmの世界最小サイズで、重さは21g。バッテリーはリチウムイオン電池でUSBによる充電で、ノーマル・モノクロ・ノイズ・ビビッドの4つのカラーモードを備えており、音声無しの動画も撮影できる。サイズ、重さ、機能の面から、どこにでも持ち歩ける。価格はオープンプライスで市場想定価格は5985円と値段もお手頃。

最近の家電は新型を発売する頻度が早い。それにより思い切って買った高価な家電が、すぐに旧型になってしまうこともあるので、ソフトウェアなどと同じようにその商品の旧型を持っている人は、他の人より割引で安価に購入出来れば、顧客を離さず長い間愛用してくれるのではないかと。